

池上彰著「小学生から『新聞』を読む子は大きく伸びる！」すばる舎 2009年7月27日刊を読む

小学生から「新聞」を読む子は大きく伸びる

はじめに—1日10分の習慣で学力の基礎をつくる！「新聞」のすごい学習効果

(1)「どうして勉強しなきゃならないの？」

子どもからこう問いかけられて、答えに困ったことはありませんか？

テストでいい点数を取るため。あるいは、いい学校に入るため。

それも間違いではありません。

ただ、その答えを突き詰めていくと、結局は「よりよい人生を生きるため」という答えになるはずです。

しかし、よい人生を生きるためと言われても、いま勉強していることが、どうつながるのか、はっきりしませんね。

(2)「読解力なんて、生活にどう関係するの？」

「方程式なんて、ふだんの生活で使わないでしょ」

「地理や歴史を知って、何か得することがあるの？」

(3)その答えは、じつは新聞の中にあります。

新聞にはさまざまなジャンルのニュースが掲載されていますが、学校で習った知識がなければ、それらのニュースを読み解くことはできません。

地理や歴史がわからないと国際政治のニュースはわからないし、数字を読む力がなければマネーのニュースもわかりません。

読解力がなければ、そもそも新聞の文章さえ理解できないでしょう。

(4)ニュースがわかれば、自分が社会の一員であり、世の中の出来事と決して無関係ではないことが理解できるようになります。社会と自分とのかかわりが見えてくれば、自分がどう生きるべきなのかも考えられるようになります。

つまり、勉強するのは世の中を理解できるようになるためであり、世の中を理解することが、「よりよい人生を生きること」へとつながっていくのです。

(5)ニュースを理解するには知識や考える力が必要ですが、逆にニュースをわかろうとすることで、知識や考える力が身につくという側面もあります。

新聞の中には、子どもの知らない世界が広がっています。

それに日々触れることで、新しい知識が蓄えられると同時に、知的好奇心が刺激されて物事を

深く考えるようになります。

新聞は、社会と自分とのかかわりを知るだけでなく、生きたニュースを題材に学力を高めることができる最高の教材なのです。

(6)身近にこれほどいい教材があるのに、最近是一般家庭の新聞離れが進み、新聞を読む子どもの数が減っています。本当にもったいない話です。

新聞の購読料は月々 3000 ～ 4000 円で、1 日 100 円ちょっと。毎朝届く通信教育と考えれば、ずいぶんお得です。

(7)新聞に、どれほどの学習効果があるのか。

小学生に、新聞は難しくないのか。

疑問に思うお父さんお母さんもいらっしゃるでしょう。

そこで、この本では、学習効果を高める新聞の読み方から、新聞を読む習慣をつける方法まで、できるだけ具体的に記しました。

我が子の教育に悩んでいる親御さんに参考になれば幸いです。

1. 新聞こそ、わが子の学力を伸ばす最適な教材です！

(1)成績上位の子は、日常的に新聞を読んでいる!?

- ①学力テストが物語る歴然とした差
- ②ニュースに触れることで頭が鍛えられる

(2)「新聞を読む子ほど学力が高い」は世界共通の傾向

- ①欧米の学力テストでも同じ結果が
- ②学力大国フィンランドの秘密は「徹底的に読む」勉強法

(3)学力の基本中の基本「読解力」が鍛えられる

- ①教科書やテスト問題が正確に読み取れるか
- ②読書だけでは育たない、「説明文」を理解する力
- ③読み物と同じくらい「新聞」に触れる機会をつくる

(4)圧倒的な「語彙力」が自然と身につく

- ①言葉をどれだけ知っているかが学習効率を決める
- ②文脈から語意を「推測」する力も育つ
- ③将来の英語学習でも生きてくる

(5)国語だけでなく、すべての教科の「教材」になる

- ①教科書外の知識が教科書への興味を育てる

- ②理科…子どもにも興味を持てる科学記事はたくさんある
 - ③算数…野球の打率で計算力アップ？
 - ④社会…世の中の仕組みや動きをリアルに学べる
- *学習意欲は意外なところから湧いてくる

(6) 中学・高校入試対策に直結している

- ①最近の入試に時事問題がさかんに出される理由
- ②テレビをぼんやり見ているだけでは、対応できない！

(7) ネット時代の今こそ、アナログの新聞に価値がある

- ①見る情報を「選べない」のがいい
- ②「知りたい」気持ちが学習意欲になる

2. 学力に直結する「考える力」は、新聞で鍛えられる

(1) 小学生のうちに「考える力」を養うことが急務

- ①『週間こどもニュース』で出会った「自分の考え」がない子どもたち
 - ②「答えを覚える」式の学習方法が通用しない!?
 - ③「考える力」は学力の新しい柱になりつつある
- *「考える力」を問う問題ってどんなの？

(2) 子どもの「考える力」は家庭で伸ばせる

- ①ゆとり教育の見直しは、時代に逆行している？
- ②親の地道な語りかけで子どもの頭が動き出す
- ③新聞を使って意見を引き出してあげよう

(3) 毎日の新聞で蓄積される知識量は膨大

- ①考える力のベースには知識が必須
- ②小学生からの習慣で開いた差は簡単に埋まらない
- ③「引き出し」をたくさんつくる

(4) 実際の「体験」との相乗効果で、知識に厚みが出る

- ①日常のあらゆる出来事が学びの対象に
 - ②「ニュースの現場」に親子で出かけてみよう
- *教科書外の知識を問われたら？

(5) 学校も、新聞の実力に気づき始めている

- ①授業で教材として活用するところが増えている

② NIE の実践報告

③ 新聞業界をあげての大々的な活動の広がり

3. まずは「新聞になじむ」ことから始めよう

(1) 「新聞がいつでもそばにある」環境をつくろう

① 新聞を取らない家庭が増えている？

② 身の回りに何があるかで、学びの量と質が決まる

(2) いつの間にか新聞を読む習慣がつくコツ

① まず親が読んでいる姿を見せる

② 無理強いしないで自然に手が伸びるのを待つ

③ 食事のときに新聞記事の話題を

(3) どの新聞を購読すればいい？

① 「一般紙」なら、全国紙でも地方紙でも

② こんな特徴は地方紙ならでは

③ 親が読みたいものを選ぶ

(4) 最近の紙面はどんどん読みやすくなっている

① 文字がギュウギュウは過去のこと

② イチからニュースを解説するコーナーが充実

③ 土日や夕刊には子ども向けの記事も

(5) 最初は「四コマまんが」を見るだけでも十分

① 時事的な内容のときも多い

② 四コマまんがの積極的な活用方法

(6) 活字が苦手な子には「写真」から入らせよう

① 下についた短いキャプションを読んでもみる

② 一枚の写真からニュースを想像するトレーニング

③ 写真は文章以上のものを語る

(7) まだまだある、新聞の世界への入り口

① スポーツ面もひとつのきっかけに

② 暮らしに密着した生活面や地域面

(8) 新聞を、親子のコミュニケーション・ツールにする方法

- ①「このニュースどう思う？」と声かけを
- ②子どもの考えをうんと褒めてあげる

(9) これで毎朝、紙面を開くのが楽しみになる

- ①子どもを「お天気係」に任命しよう
- ②気象情報にも勉強になる要素が詰まっている
- ③手に取ることで「見てみよう」という気になる

(10) 「子ども新聞」を取ってみるのも手

- ①本家の新聞のニュースをわかりやすく解説
- ②小学生の興味を引く記事が満載
- ③慣れてきたら、いずれは普通紙へ
* テレビ番組から知識の大枠を吸収する

4. この読み方で、新聞は一気に面白くなる！

(1) まずは一面と社会面だけ読んでみよう

- ①一面にはその日の最重要ニュースが載っている
- ②慣れないうちは左ページに注目してみる
- ③子どもにもリアリティがあるのは、社会面の記事

(2) 「見出しと最初の数行」に記事のポイントが書かれている

- ①新聞の「逆三角形構造」を活かした読み方
- ②文字量の多さも楽に克服

(3) ハンディサイズの辞書をリビングに常備

- ①わからない言葉をその場で調べられるように
- ②漢和辞典や年鑑も役に立つ
- ③「自分で調べる」訓練にもなる

(4) 地図帳もそばに置いておこう

- ①記事に出てきた地名を地図上で確認
- ②文字情報では伝わらないことも地図なら一発

(5) 一面コラムを使って「書く力」もアップ

- ①新聞各社が培ってきた文章力が凝縮されている
- ②音読や書き写しで文章のリズムを身体で覚える

③書き出しに注意して読む

(6)「投稿コーナー」に意見を送ってみよう

- ①子どもの投書は採用されやすい？
- ②他の人の考えを読んで「自分ならどうする？」を問う訓練に
- ③親子で投書してみるのもいい

(7)「気になる記事」のスクラップに挑戦

- ①関心のアンテナが広がっていく
 - ②切り取らずに赤丸をつけ、後々まとめて作業
 - ③最初は親のお手伝いから始めるのも手
- *私のスクラップ体験

(8)ぜひ一度受けてみてほしい「ニュース検定」

- ①新聞を読む習慣を強固にするために
 - ②小学生のニュース博士が続々登場
 - ③高校や大学入試で優遇措置も
- *ニュース検定ってどんな試験？

5. 新聞を読む子と読まない子、人生でここまで差がつく

(1)考える力の有無で、将来の生きやすさも変わる

- ①人生は正解のない問題の連続
- ②自分なりの答えを出せる大人になるために

(2)「わかる」とはどういうことか？

- ①ただ「知っている」のとは大違い
- ②ニュースの裏にある真実を読み取る力

(3)感受性の豊かな時期に「想像力」を育む大切さ

- ①新聞が提供してくれる、遠い世界の情報
- ②人の痛みや苦しみにどれだけ思いをはせられるか

(4)新聞の読み比べで「メディアリテラシー」を磨く

- ①情報はどんなふうにも操作できるもの
- ②各紙の異なる意見を読んで「健全な懐疑心」を養う
- ③テレビのニュース番組との比較も効果的

(5) 世の中が見えている子は、目標も見つけやすい

- ①さまざまな職業の人の生き様を新聞が教えてくれる
- ②私が NHK に入社した理由
- ③早くから目標が見つければ、学ぶ意欲も湧いてくる

<コメント>

1. 久しぶりの「書き抜き読書ノート」は、NHK「週間子どもニュース」の元キャスターで、現在は東京工業大学教授の池上彰氏の小学生からの新聞のすすめ。
2. 内容すべてに納得がいき、教育上有用と判断したため、開倫塾の全校舎備え付け図書として購入しようと考えたが、本書は現在絶版のため、やっとの思いで 10 冊をアマゾンで入手した。そのうちの 9 冊をブロック長の先生に、1 冊を部長の先生に、昨日(6月14日)のブロック長会議でお渡しした。
3. 各ブロックでは、校長や社員各位のまわし読みしながらの活用を強く希望する。出版社には、再刊を何よりも強く希望したい。
4. 私は小学校 4 年生のときに足利市立山辺小学校のクラス担任の岡典子先生から「小学 4 年生になったら新聞を読むように」と教えられ、その日から新聞を読み始め、世の中で生起している出来事を広く知るきっかけを与えられた。
5. 紙ベースの新聞こそ知識の宝庫。毎日自宅に届けられる日本の新聞は日本の誇り。是非、小学生からの大活用を希望する。

— 2016 年 6 月 15 日(水) 林 明夫記 —